

V 各教科の結果

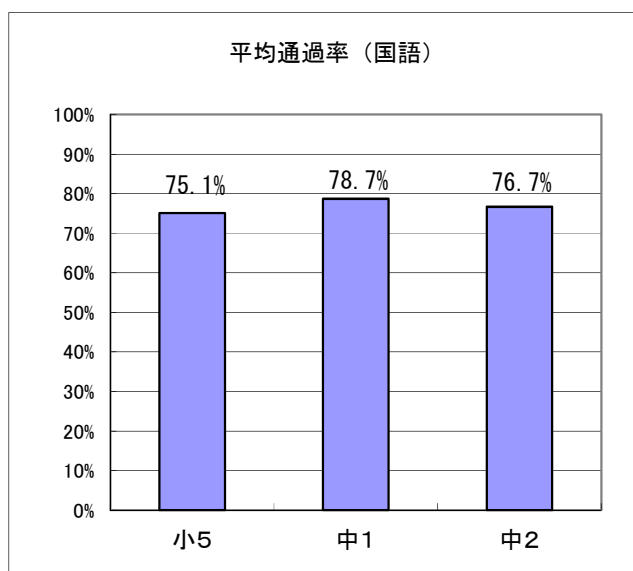
1 各教科の全体平均通過率

以下、教科ごとに調査実施学年の全体平均通過率を示しており、本県の総合的な学力の定着状況の概要を、教科・学年ごとに把握することができる。

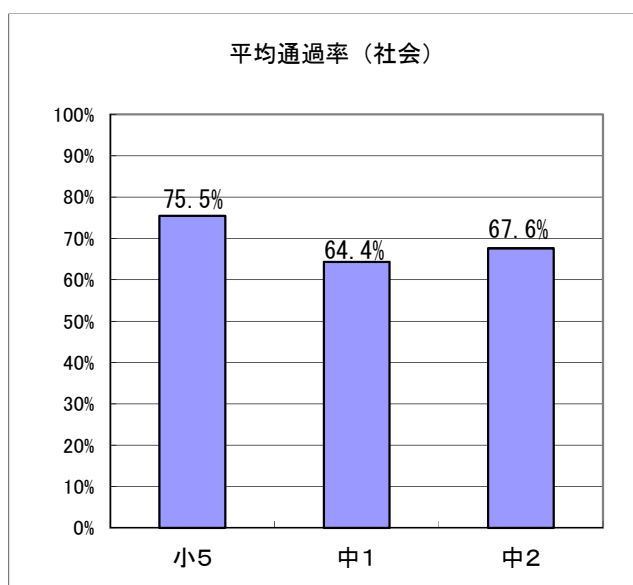
本調査では、設定通過率を「基礎・基本」8割、「思考・表現」5割、全体の通過率を7割に設定し、調査問題を作成している。

本年度の調査では、設定通過率7割を超えた教科が14調査中8教科と、昨年度より増え、改善が図られた。特に中学校において、通過率が大幅に上昇した教科が見られた。

一方、中1社会、中2英語は昨年度と同程度にとどまっており、課題が残っている。

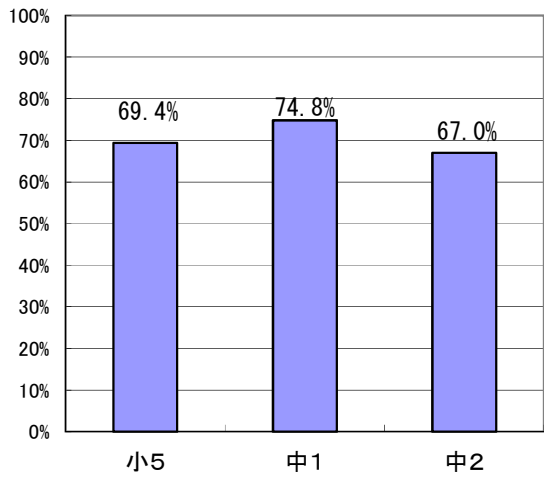


国語	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	81.1%	63.1%	75.1%
中1	82.9%	73.8%	78.7%
中2	76.8%	76.6%	76.7%



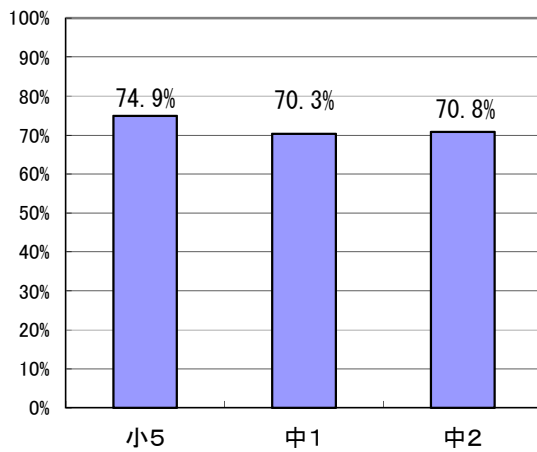
社会	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	80.5%	68.2%	75.5%
中1	67.1%	58.8%	64.4%
中2	67.6%	67.6%	67.6%

平均通過率(算数・数学)



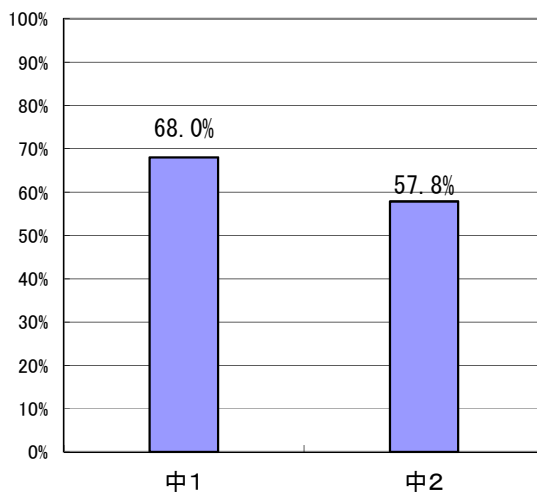
算数・数学	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	75.9%	53.7%	69.4%
中1	80.4%	61.7%	74.8%
中2	71.3%	58.5%	67.0%

平均通過率(理科)



理科	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	75.8%	73.7%	74.9%
中1	71.4%	68.2%	70.3%
中2	74.3%	62.3%	70.8%

平均通過率(英語)



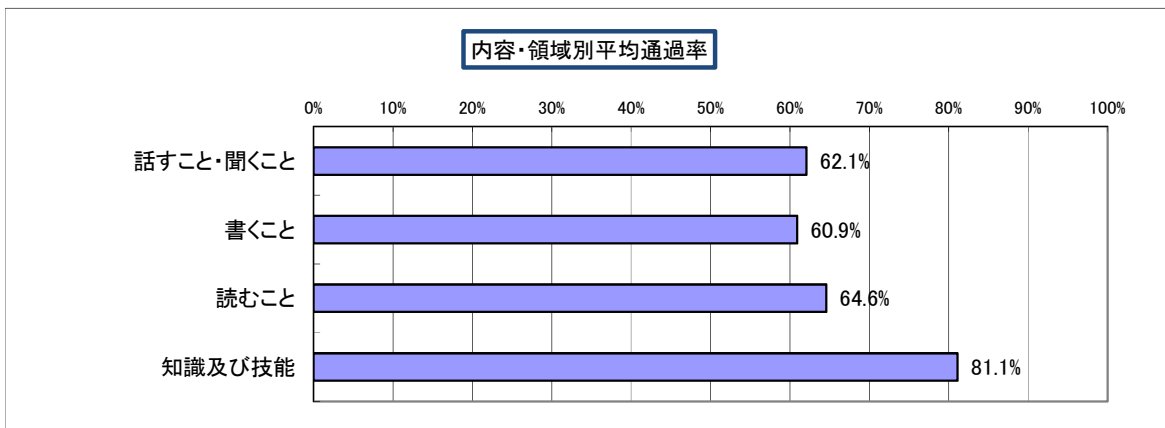
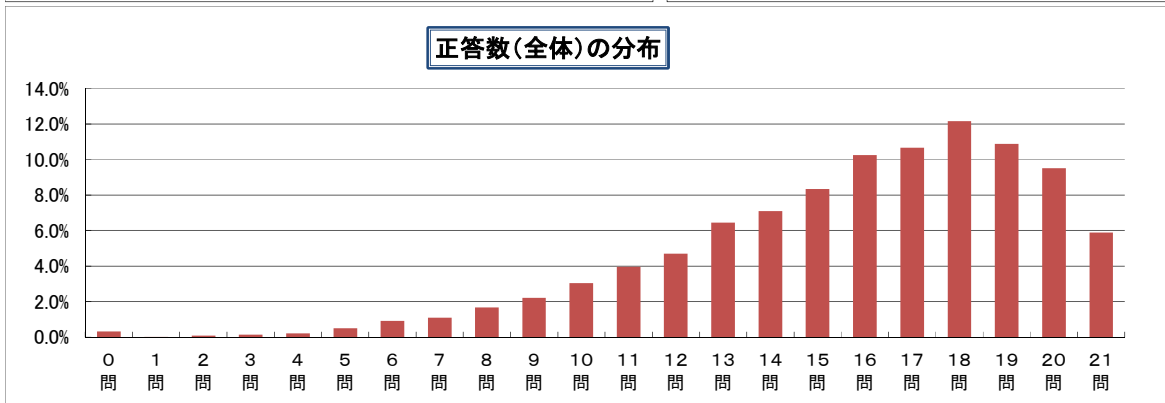
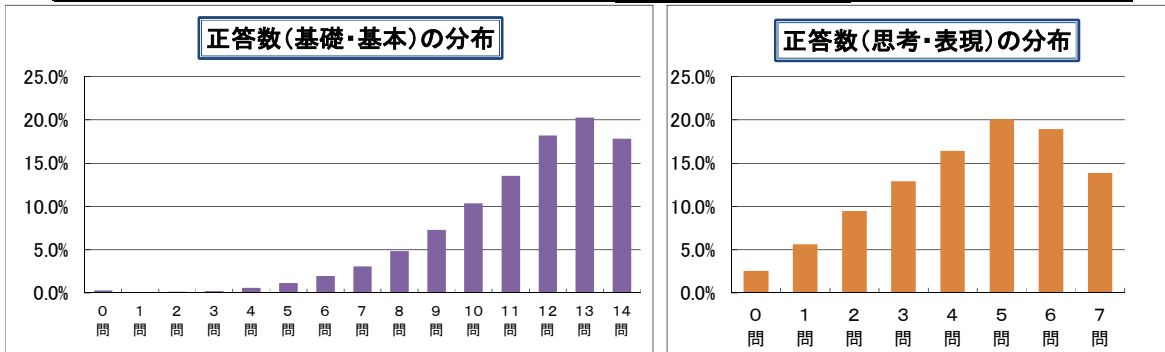
英語	基礎・基本	思考・表現	全体
中1	67.4%	69.7%	68.0%
中2	62.6%	45.5%	57.8%

2 各教科の平均通過率と受検者の正答数分布（県全体）

(1) 【小学校】

小学校第5学年【国語】

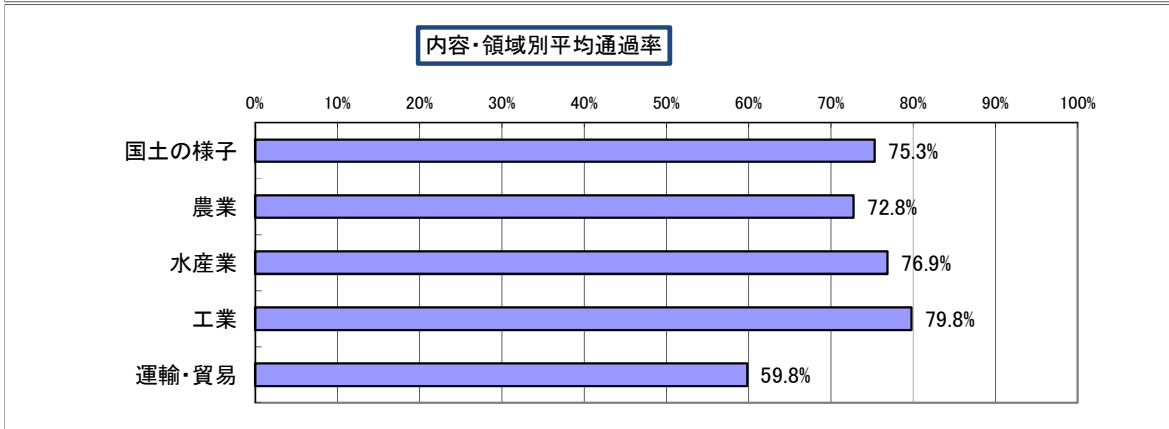
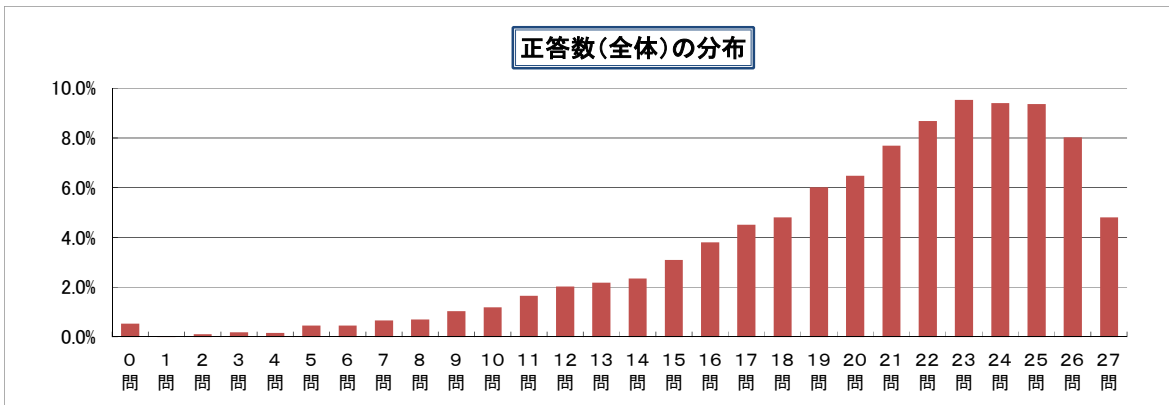
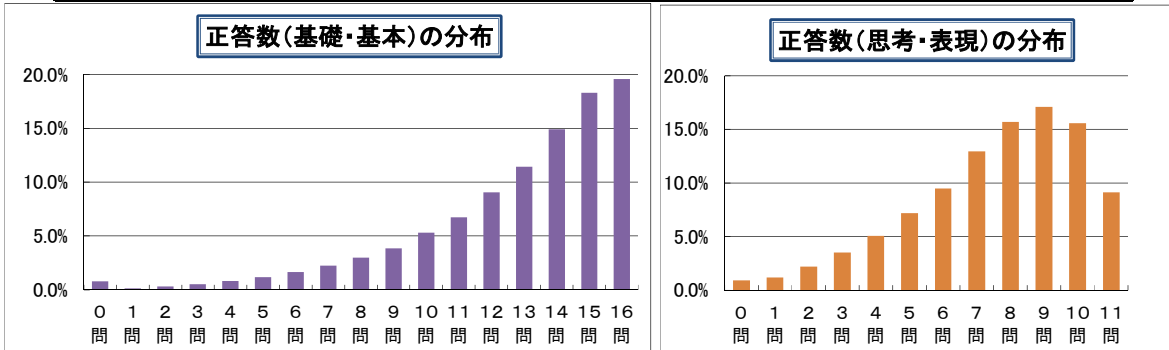
学年別平均通過率				
		小5	中1	中2
	基礎・基本	81.1%	82.9%	76.8%
思考・表現	63.1%	73.8%	76.6%	
全体	75.1%	78.7%	76.7%	



- 内容・領域別に見ると、知識及び技能に関して通過率が高くなった。無解答率に関しても昨年度同様に低く、最後まで粘り強く設問に取り組み、解答している児童が多いことがわかる。
- 「読むこと」に関しては、通過率は約65%であったが、文学的文章の読みにおいては、やや課題が残った。大問3の三で、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える設問を出題したが、通過率は50%程度であった。文章中の言葉にこだわり、その言葉からどう感じたかを表現する活動を授業の中に位置付け指導したい。
- 「書くこと」に関しては、60%を超える通過率であったが、自分の考えが伝わるように書く設問にやや課題があった。自分の考えを条件に合わせて書く活動を授業の中に位置付け指導したい。

小学校第5学年【社会】

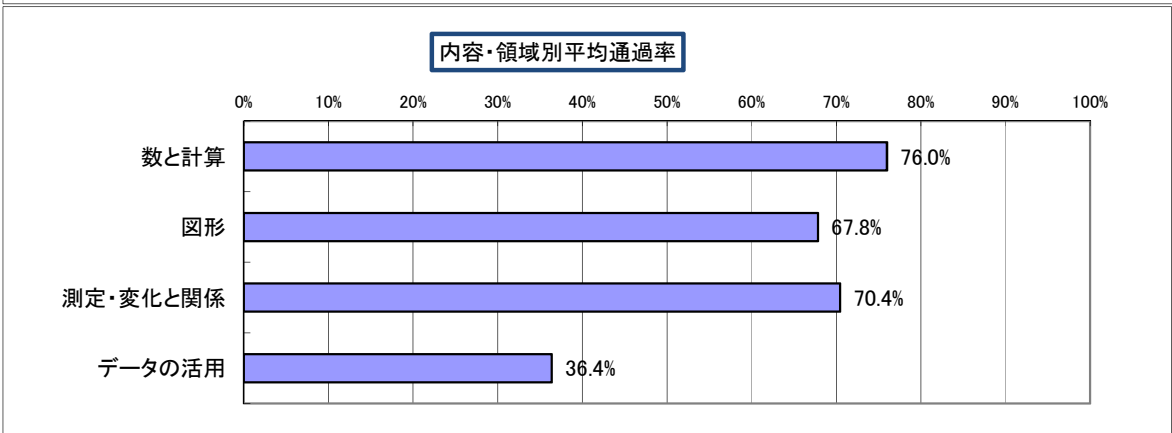
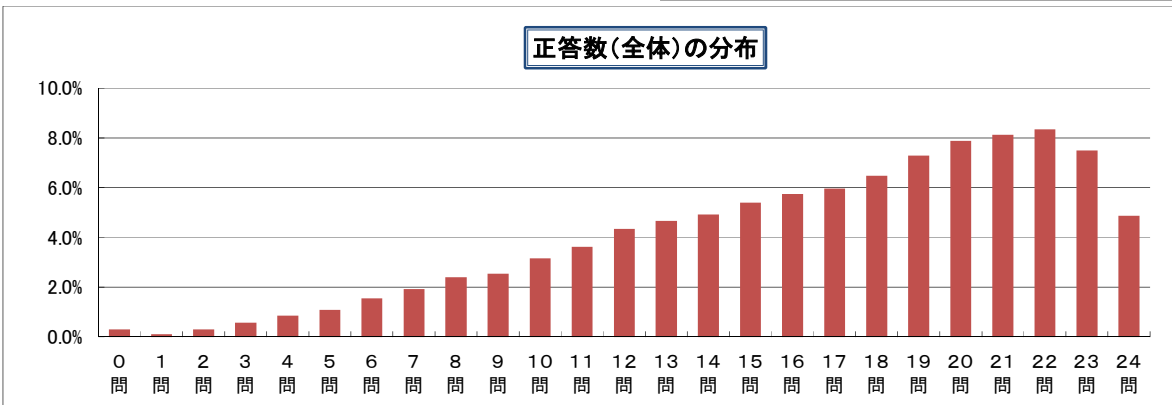
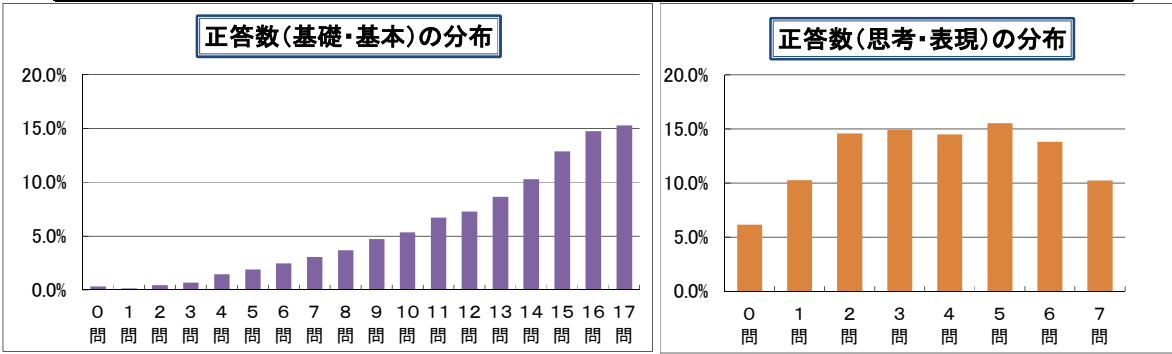
学年別平均通過率			小5	中1	中2
	基礎・基本		80.5%	67.1%	67.6%
	思考・表現		68.2%	58.8%	67.6%
	全体		75.5%	64.4%	67.6%



- 「基礎・基本」に関する問題の平均通過率は80.5%と高く、定着が十分図られている。ただ、日本近海の寒流や暖流についての問題のみが62.5%と低い。それぞれの特徴を押さえるとともに、地図帳を利用して位置関係を把握したり、また、白地図に記入させたりする活動が効果的である。
- 「思考・表現」に関する問題の平均通過率は68.2%と概ね定着が図られているが、二つの雨温図を比較して説明する問題や資料を使って食料問題を説明する問題、自動車を海外で生産するメリットを判断する問題の通過率は低くなっている。雨温図のどこに着目すればいいかなど、ポイントとなる部分に児童が自ら気付けるような指導を行いたい。
- 今後は、資料・グラフ等から分かることを説明したり、複数の資料の共通する部分や相違点等をまとめたりする活動を繰り返し行うとともに、自分の考えを発表したり、ペア・グループで意見を交流したりする活動に取り組ませたい。

小学校第5学年【算数】

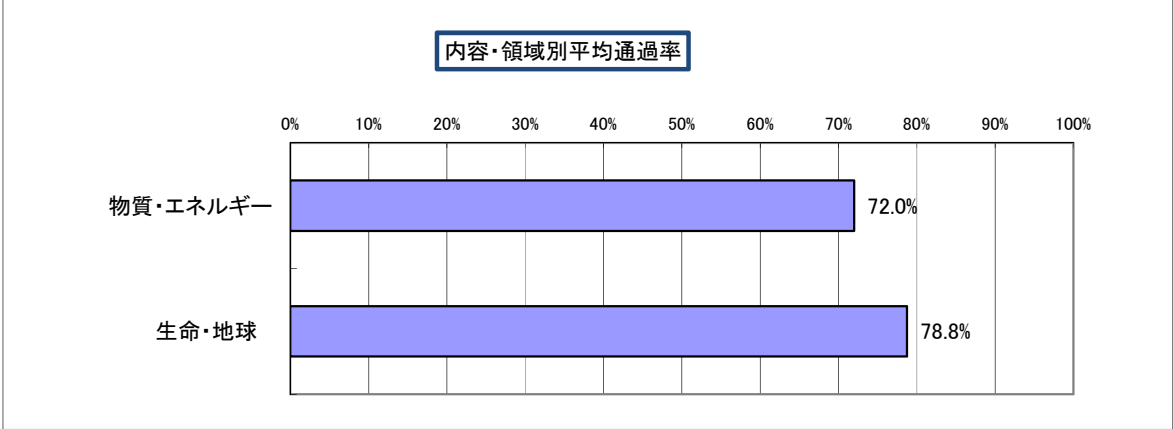
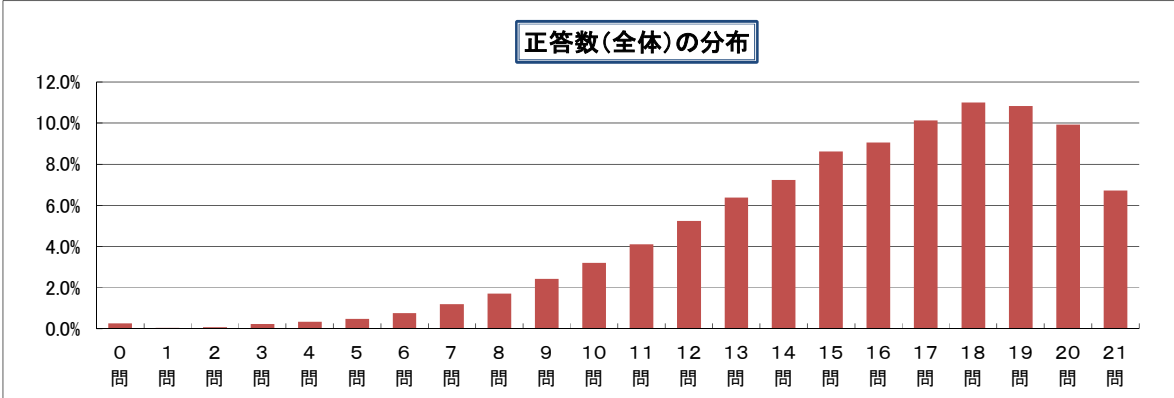
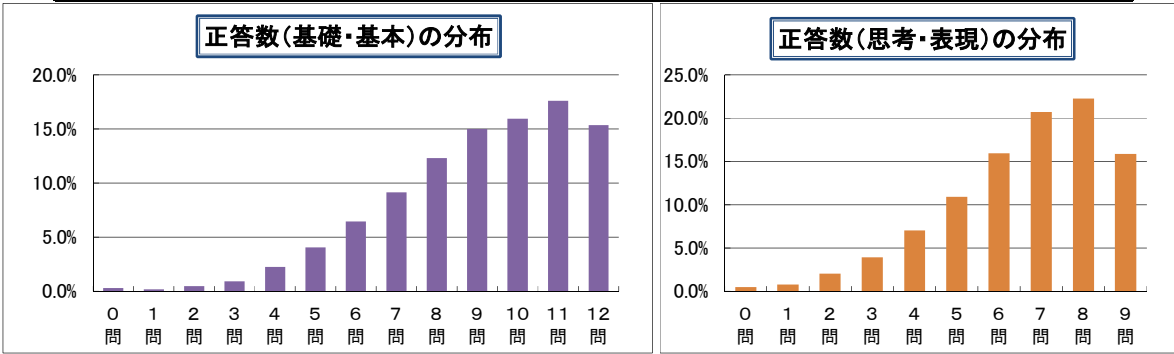
学年別平均通過率	基礎・基本	小5	中1	中2
	思考・表現	75.9%	80.4%	71.3%
	全体	53.7%	61.7%	58.5%
	全体	69.4%	74.8%	67.0%



- 「基礎・基本」については、平均通過率が75.9%であるが、計算問題6問のうち3問が80%を下回っている。その他、「数と計算」領域の小数倍の関係の問題が62.5%、「図形」領域の四角形の対角線の性質の問題が52.4%であり課題となっている。17問中、正答数8問以下の者が14.1%もおり、基礎・基本の確実な定着を図る必要がある。
- 「思考・表現」については、53.7%である。言葉や数等を使って説明する4問の無解答率はそれぞれ9.5%、6.7%、8.1%、10.0%と高い。「データの活用」領域は、平均を説明する問題が37.5%、2つの折れ線グラフを読み取り、変化の様子を説明する問題が35.3%で、説明する問題やデータの活用の領域に課題がある。
- 授業で理解したことを繰り返し振り返る機会を設け、基礎・基本の定着を図る必要がある。また、問題場面や式、図、表、グラフを読み取る力、考えを説明する力を育成する必要がある。

小学校第5学年【理科】

学年別平均通過率	基礎・基本	小5	中1	中2
	思考・表現	75.8%	71.4%	74.3%
	全体	73.7%	68.2%	62.3%
		74.9%	70.3%	70.8%

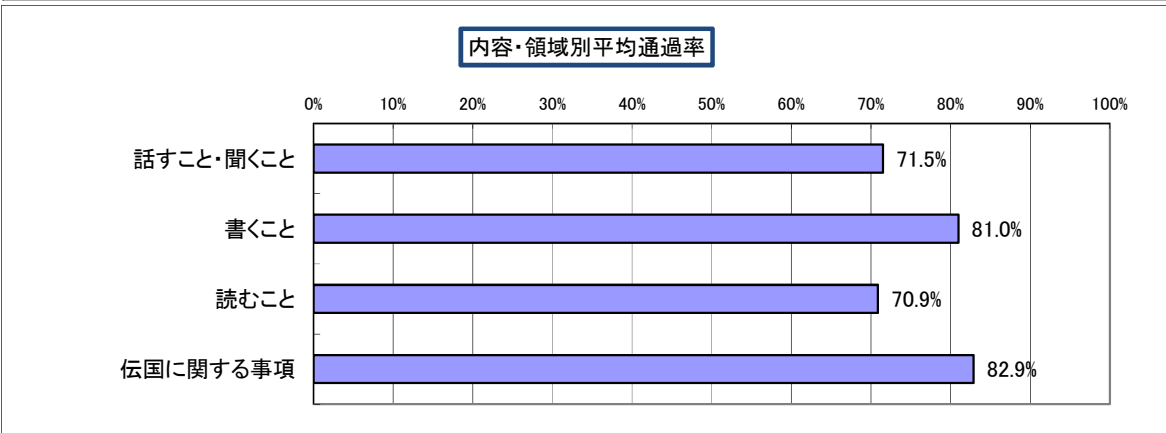
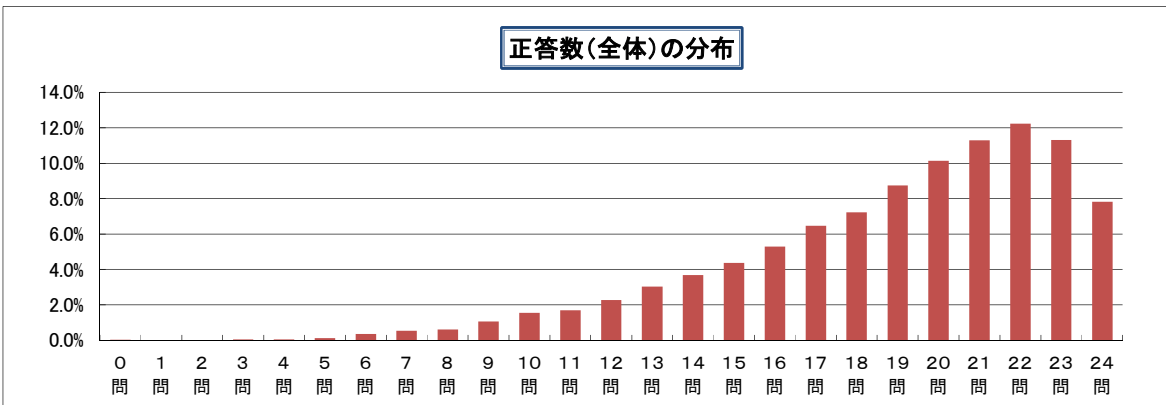
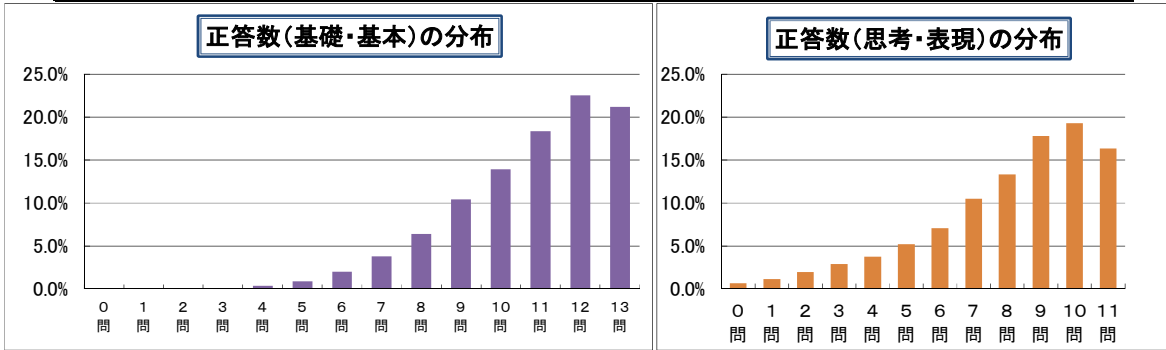


- 「基礎・基本」の平均通過率は75.8%であるが、小4で学習した内容、大問7(2)閉じこめた空気、水をおしたときの体積変化に関する問いの通過率が49.3%と低くなっている。
- 「思考・表現」の平均通過率は73.7%であり、概ね目標に達しているが、大問6(1)予想に対する見通しの考察では、通過率は51.2%である。日頃の授業において、正確な知識を身に付けるとともに他者の意見を踏まえ、自分の考えを練り上げる場面を多く設定したい。
- 「問題解決の過程」を踏まえた授業を展開し、個人の考えをしっかりとらせる工夫を行い、特に、自分の考えを再構築する振り返りを大切にしてほしい。また、単元末等で、かごしま学力向上支援Webシステムにある評価問題等を使うことで、学習内容を確実に定着させたい。

(2) 【中学校】

中学校第1学年【国語】

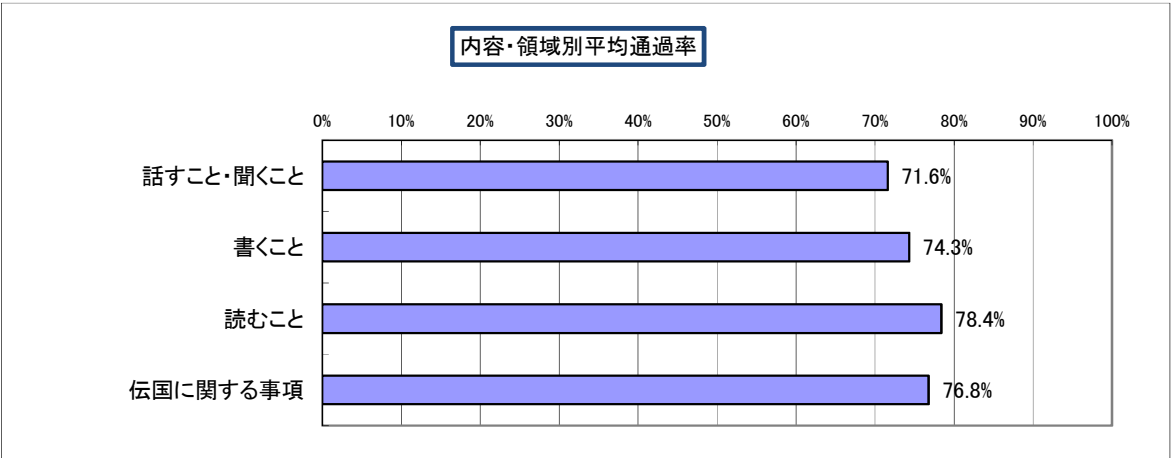
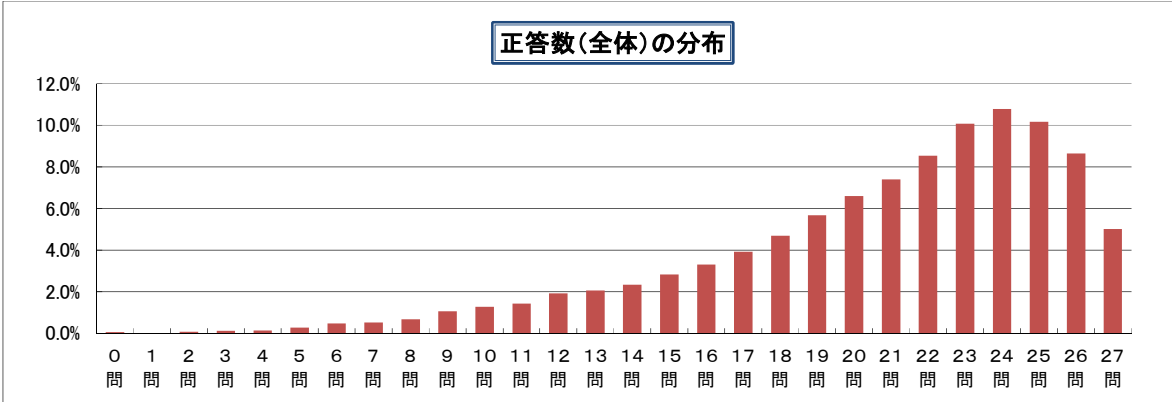
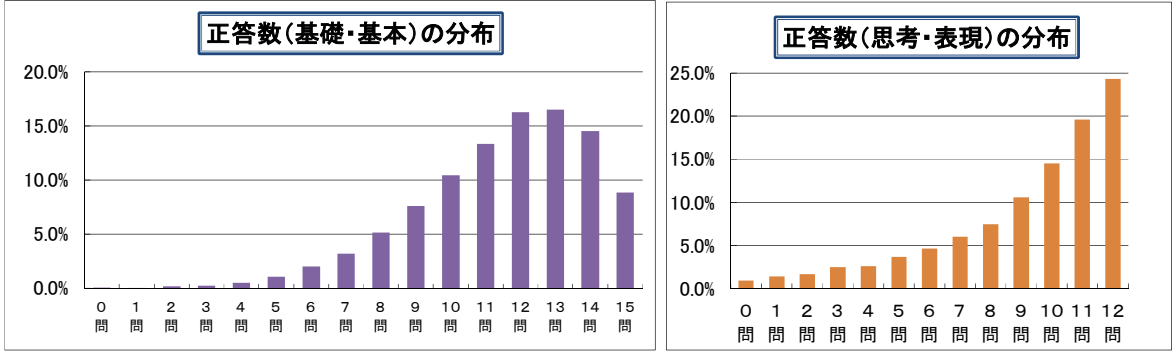
学年別平均通過率		小5	中1	中2
	基礎・基本	81.1%	82.9%	76.8%
	思考・表現	63.1%	73.8%	76.6%
	全体	75.1%	78.7%	76.7%



- 全ての内容・領域において平均通過率は7割を超えた。無解答率に関しては、昨年度に比べてやや高くなった。文章量をやや増やしたことによる結果だと思われるため、教科指導と併せて読書指導も継続して指導したい。
- 「伝国に関する事項」と「書くこと」は80%を越える通過率であり、概ね定着が図られている。ただ「伝国に関する事項」の中で部首名を答える設問は60%を下回る結果であり、定着していない部首名を取り上げ、指導していく必要がある。
- 「読むこと」においては、大問4の三の3で、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える設問（小5類似）を出題したが、通過率が60%程度であった。授業の中で、文章中の言葉に着目させ、その言葉からどう感じたかを表現する活動を位置付け指導したい。

中学校第2学年【国語】

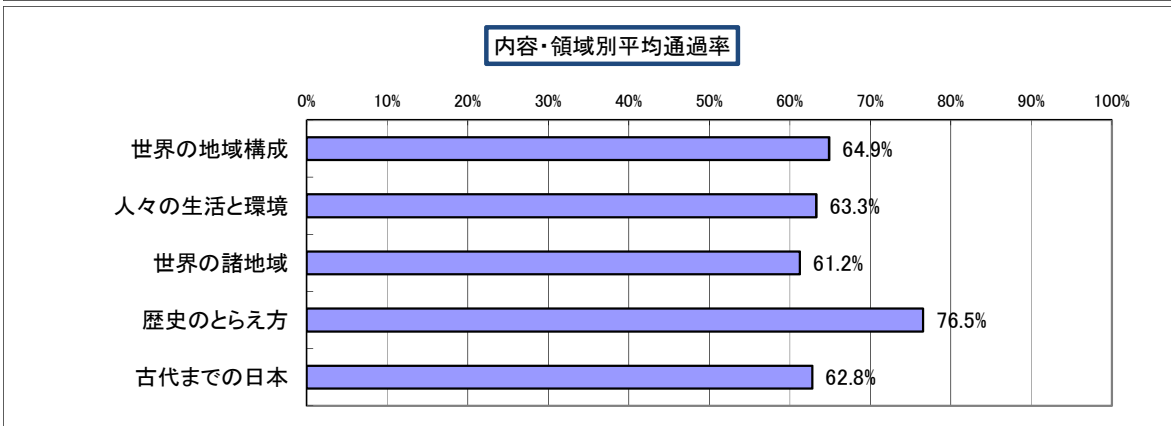
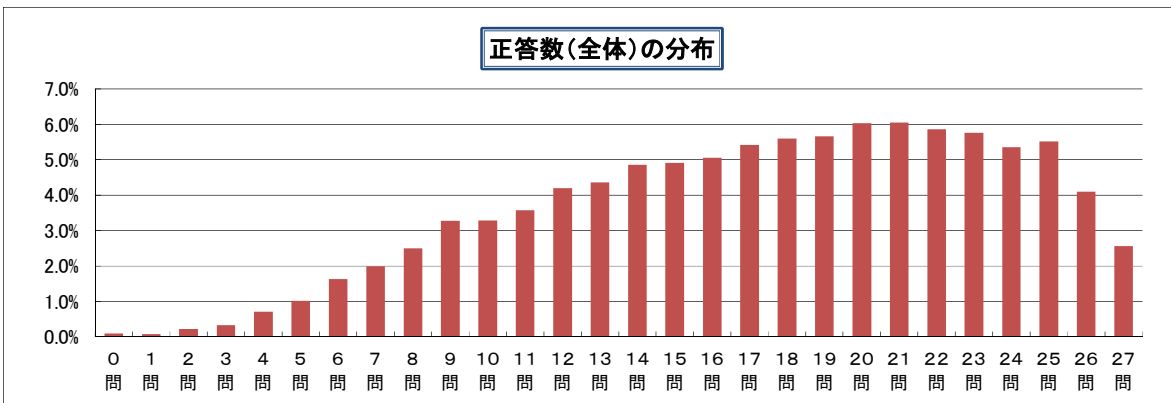
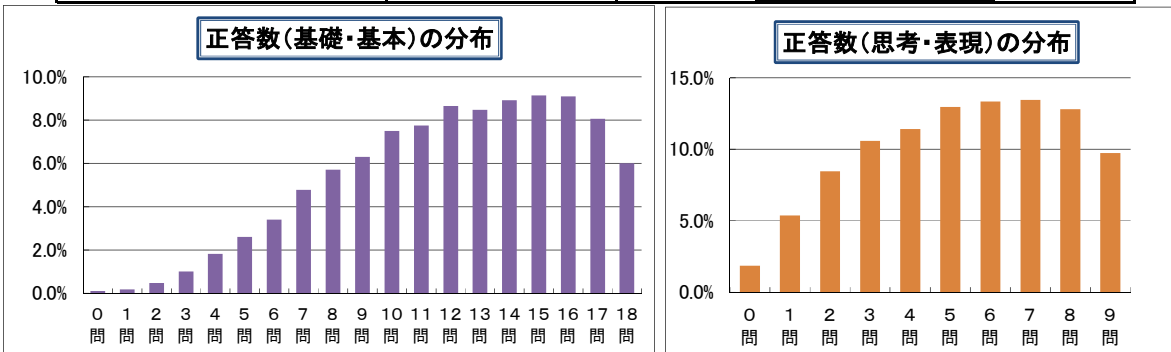
学年別平均通過率	基礎・基本	小5	中1	中2
	思考・表現	81.1%	82.9%	76.8%
	全体	63.1%	73.8%	76.6%
	全体	75.1%	78.7%	76.7%



- 全ての内容・領域において平均通過率は7割を超えた。また、無解答率の割合も昨年度より減少した。
- 「読むこと」の領域と「伝国に関する事項」は通過率が75%を超え、概ね定着が図られている。ただし、動詞の活用形を問う設問や、行書の特徴を問う設問の通過率は、昨年度よりは上昇しているものの、課題は継続している。
- 「話すこと・聞くこと」では、伝えたい事柄を理解し、目的に応じて工夫して表現できるかを問う設問がやや通過率が低かった。目的意識や相手意識を常に意識して表現させる活動を位置付ける授業改善が求められる。記述式で答える設問の無解答率がやや高い。授業の中で、自分の考えを、条件をつけて書かせる活動を積極的に位置付けて指導したい。

中学校第1学年【社会】

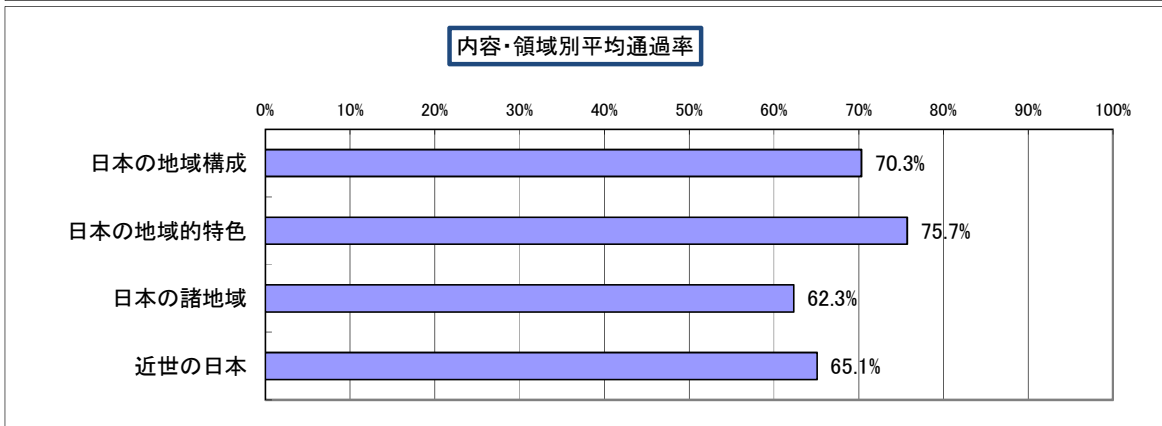
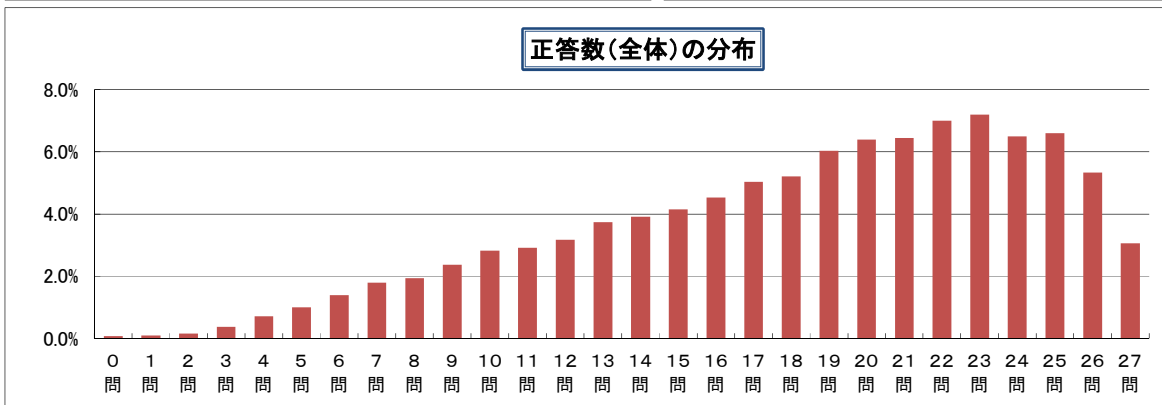
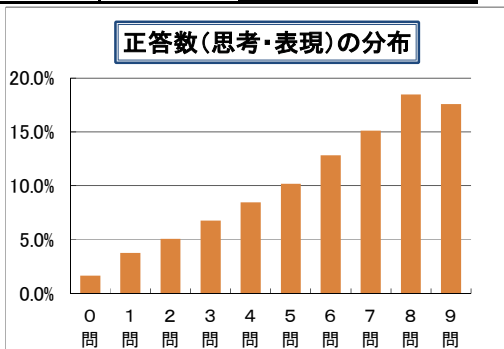
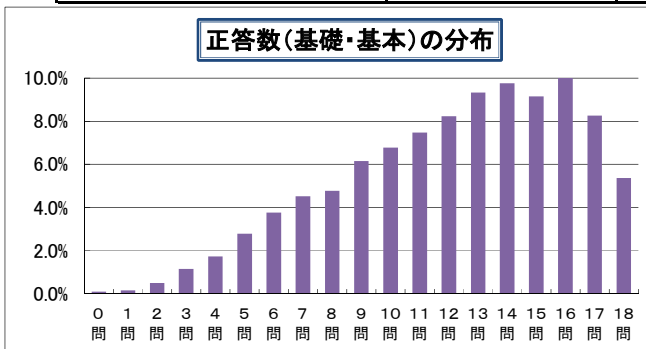
学年別平均通過率			小5	中1	中2
	基礎・基本		80.5%	67.1%	67.6%
	思考・表現		68.2%	58.8%	67.6%
	全体		75.5%	64.4%	67.6%



- 「基礎・基本」に関する問題の平均通過率は67.1%であり、地理では、パリの位置を問う問題が52.7%、歴史では、国風文化に関する作品を問う問題が33.6%と極端に低い。地図帳を使用して位置を確認したり、様々な文化の特色と比較させて、その違いを説明させたりするなど、授業での工夫を図りたい。
- 「思考・表現」に関する問題の平均通過率は58.8%と低い。雨温図の特徴を説明する問題が47.5%、二つの資料からヨーロッパ連合の課題を読取る問題が49.1%と特に低い。気候帯の学習において、一つの都市の位置や気候の特色を重点的に調べる学習をすることで、着目するポイントが分かり、他の気候帯の学習にも応用ができる。また、定期的に復習を取り入れたい。
- 今後は、授業の中で、複数の資料(写真、グラフ、表等)を活用して、社会的事象を多角的・多面的に捉え、事象について自分の言葉で共通点や相違点をまとめたり、考えたことをペアやグループで交流したりして、考えを深めることができるような活動を積極的に取り入れたい。そして、かごしま学力向上支援Webシステムにある評価問題等を繰り返し活用して、思考力、判断力、表現力等を高められるよう取り組ませたい。

中学校第2学年【社会】

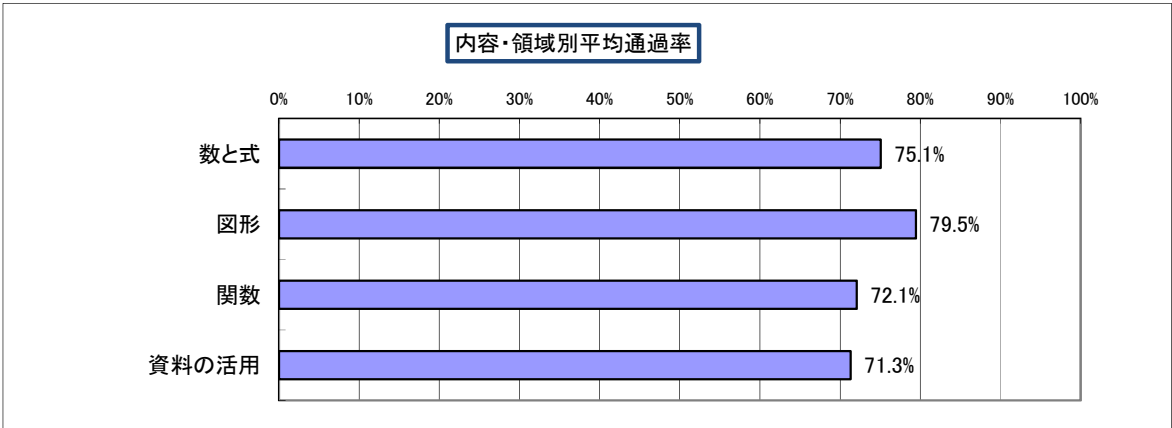
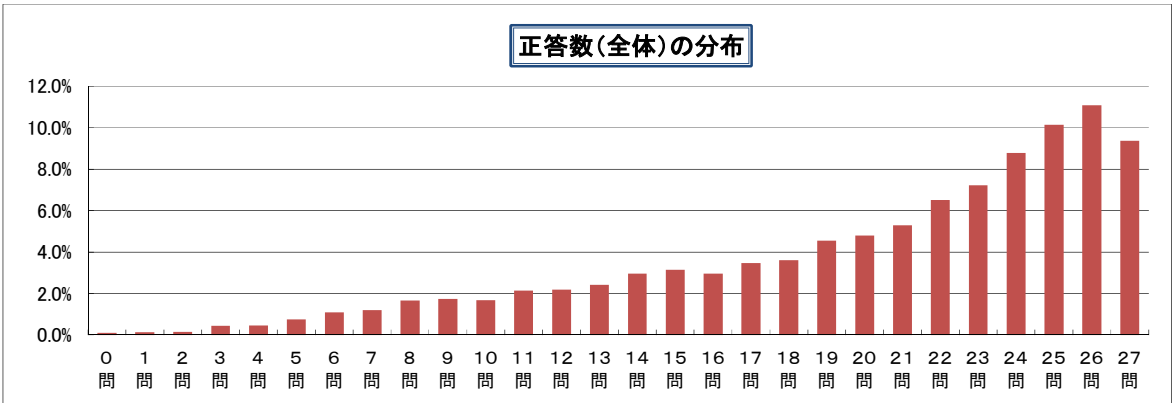
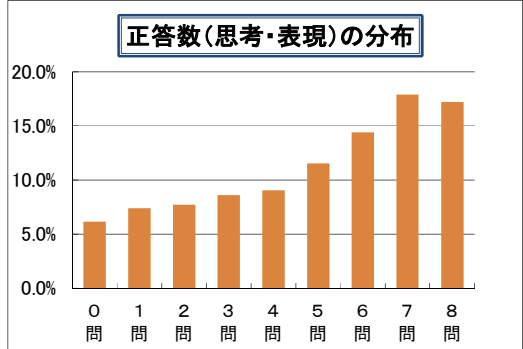
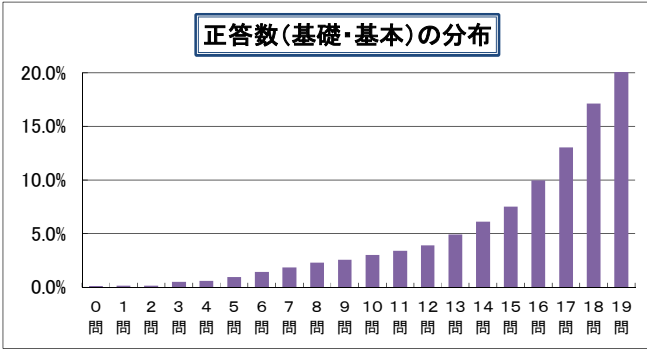
学年別平均通過率		小5	中1	中2
	基礎・基本	80.5%	67.1%	67.6%
	思考・表現	68.2%	58.8%	67.6%
	全体	75.5%	64.4%	67.6%



- 「基礎・基本」に関する問題の平均通過率は67.6%であり、地理では、北九州市の特色を問う問題が31.6%、歴史では、元禄文化と化政文化の作品を問う問題が43.5%と低い。小テストなどで重要語句の定着を図ったり、様々な文化の特色と比較させて、その違いを説明させたりするなど、授業での工夫を図りたい。
- 「思考・表現」に関する問題の平均通過率は67.6%である。地理では、海洋国であることを説明する問題が56.4%、歴史では、大阪が江戸時代に商業の中心地として栄えた理由を説明する問題が51.5%と低い。この問題は、設問そのものが、授業のめあてに相当する。授業の中で、意図的に考えさせる場面を設定し、発表させたい。
- 今後は、既習事項を定期的に復習する場面を取り入れることによって、確実に知識を定着できるようにしたい。授業の中では、複数の資料(写真、グラフ、表等)を活用して、社会的事象を多角的・多面的に捉え、事象について自分の言葉で共通点や相違点をまとめたり、考えたことをペアやグループで交流したりして、考えを深められるような活動を積極的に取り入れたい。そして、かごしま学力向上支援Webシステムにある評価問題を繰り返し活用して、思考力、判断力、表現力等を高められるよう取り組ませたい。

中学校第1学年【数学】

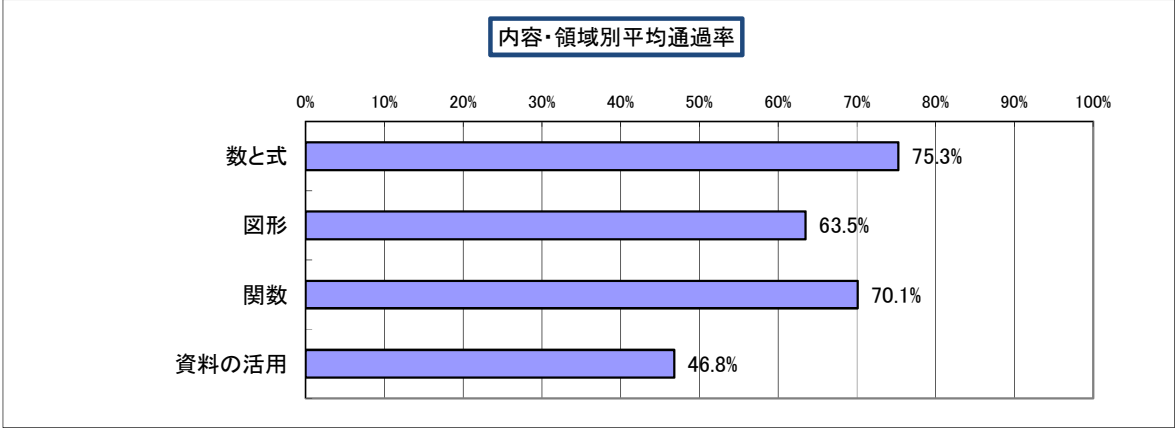
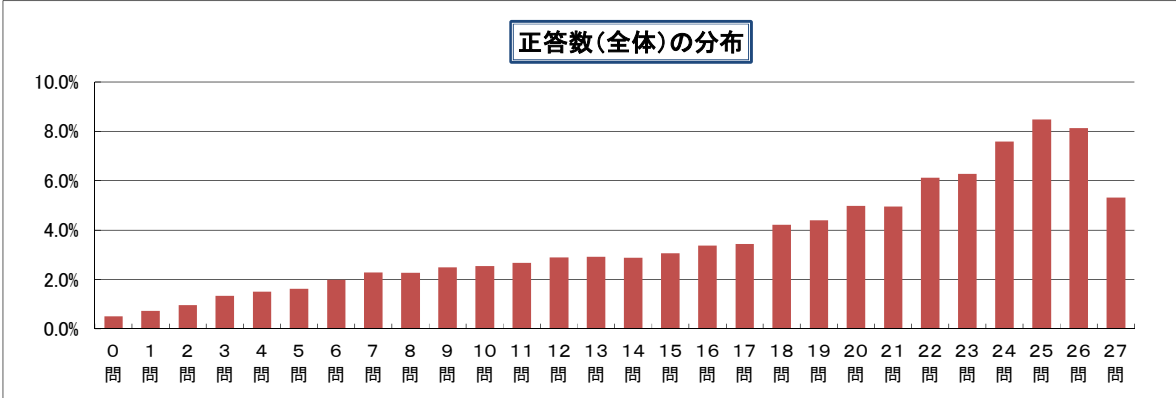
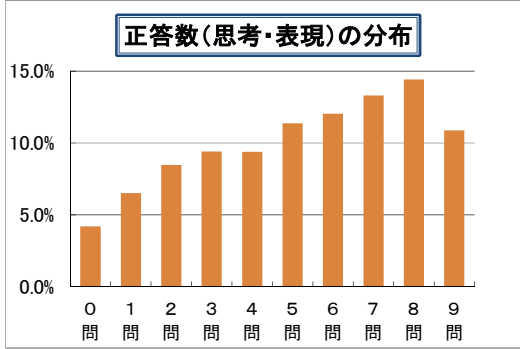
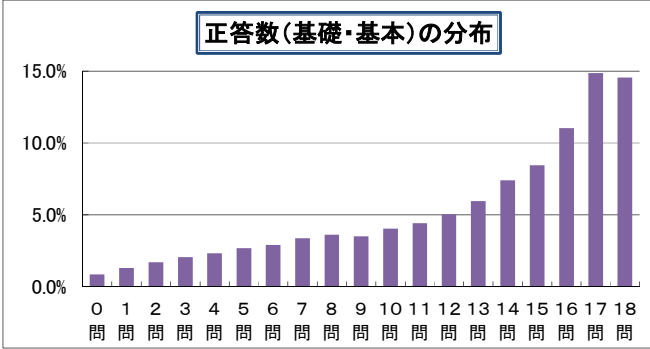
学年別平均通過率	基礎・基本	小5	中1	中2
	思考・表現	75.9%	80.4%	71.3%
	全体	53.7%	61.7%	58.5%
		69.4%	74.8%	67.0%



- 「基礎・基本」については、平均通過率が80.4%であり、概ね定着が図られているが、三角柱の展開図から体積を求める問題が59.0%、不等式を立式する問題が67.8%、絶対値の理解を問う問題が68.5%であり、十分に定着できていない。
- 「思考・表現」については、61.7%である。事象の規則性を方程式等を用いて説明する問題が40.7%（無解答率6.2%）、四角形や対角線を用いて組み合わせを求める問題が42.2%（無解答率7.3%）であり、問題の解決に図を効果的に用いることが課題である。
- 絶対値や対称な図形の性質など、授業で扱われる機会が少ない内容の定着が十分ではない。このような内容及び理解が十分でない内容については、振り返りの場面を設定したり、練習問題に取り組みせたりして定着を図る必要がある。

中学校第2学年【数学】

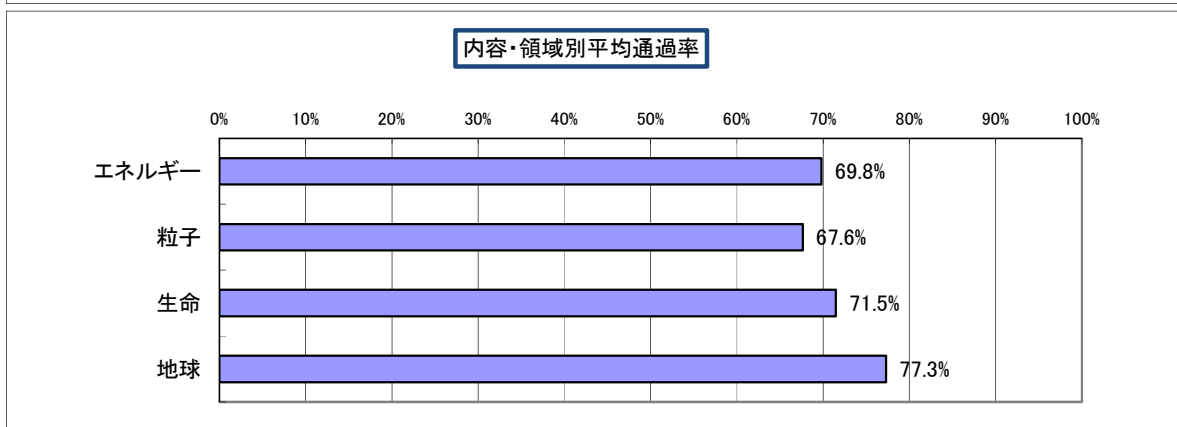
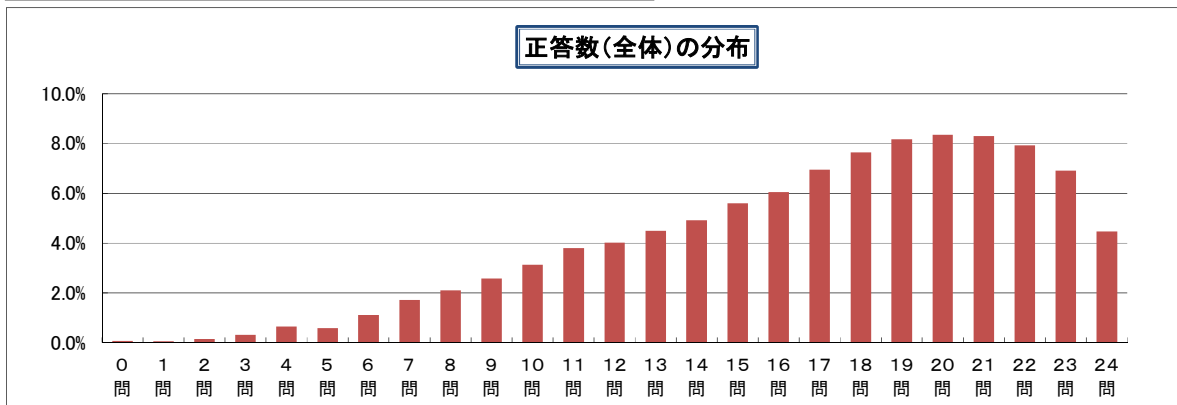
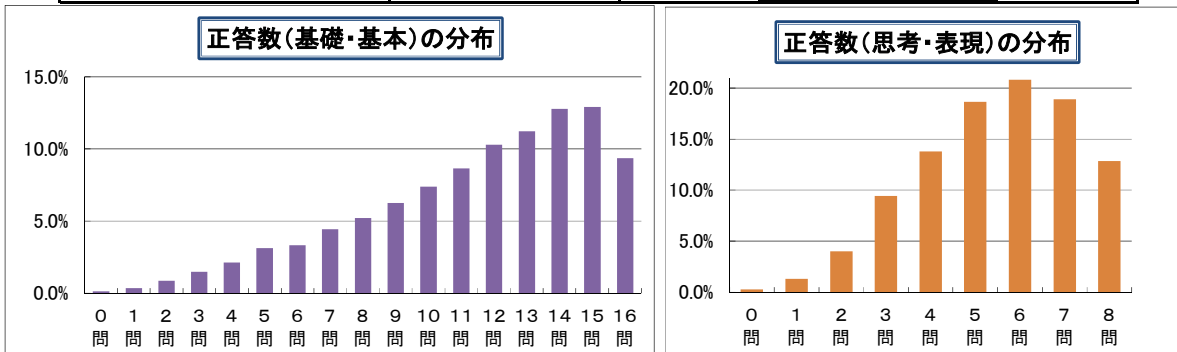
学年別平均通過率	基礎・基本	小5	中1	中2
	思考・表現	75.9%	80.4%	71.3%
	全体	53.7%	61.7%	58.5%
	全体	69.4%	74.8%	67.0%



- 「基礎・基本」については、平均通過率が71.3%であり、最頻値の問題が40.4% (無解答率13.2%)、円錐の体積の問題が54.5% (無解答率6.7%)、正多角形の内角の問題が61.5%と、定着が図られていない。18問中、正答数8問以下の者が24.3%おり、基礎・基本の確実な定着を図る必要がある。
- 「思考・表現」については、58.5%である。ヒストグラムと中央値を用いて説明する問題が38.0% (無解答率7.4%)、大きさの異なる二つの集団の傾向を説明する問題が42.2% (無解答率31.1%)、合同を用いて二等辺三角形であることを説明する問題が48.4% (無解答率19.3%) であり、知識や技能を活用して説明すること、特に資料の活用の領域に課題がある。
- まず、計算問題などの基礎的な技能を高める指導をする必要がある。
次に、比例・反比例に関する式、表、グラフの特徴を定着させなければならない。
さらに、授業や自宅学習において、習得された知識・技能を活用させ、解決方法や考え方を図、表、グラフ等を用いて説明したり、書かせたりする課題に取り組ませる必要がある。

中学校第1学年【理科】

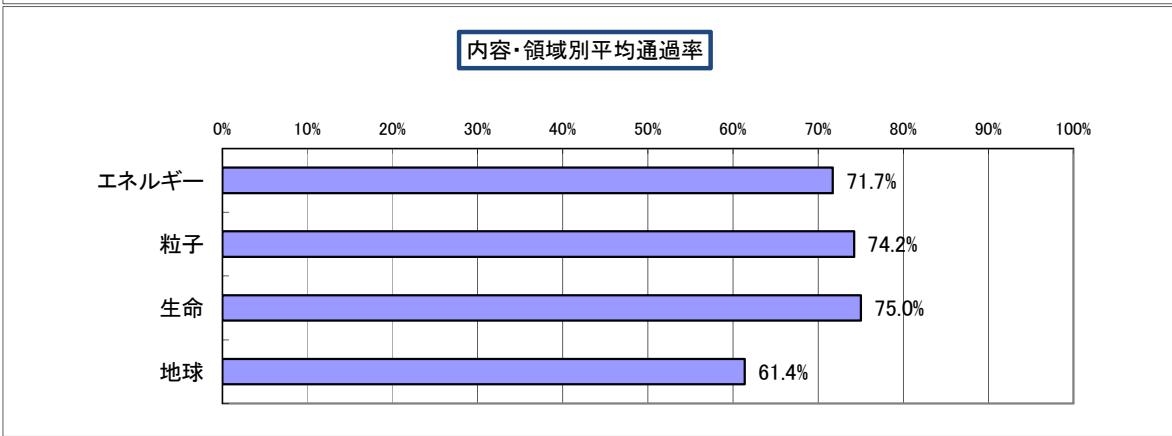
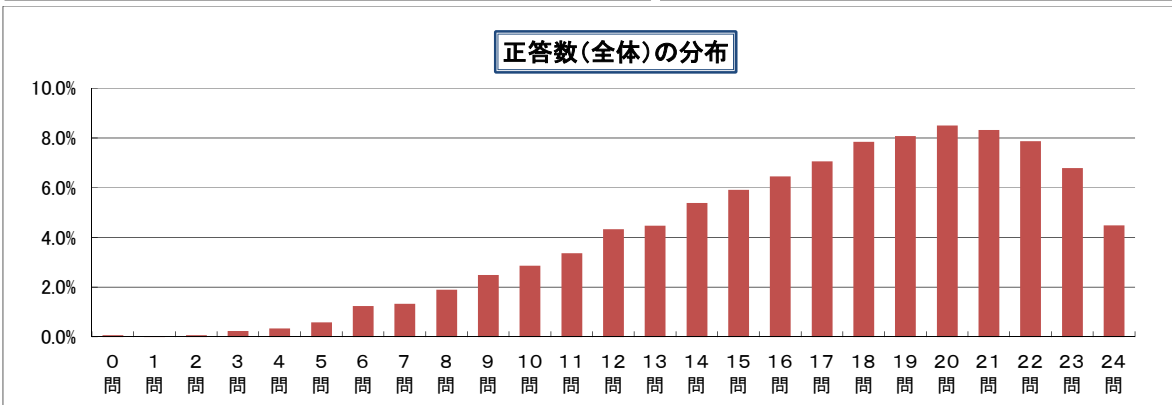
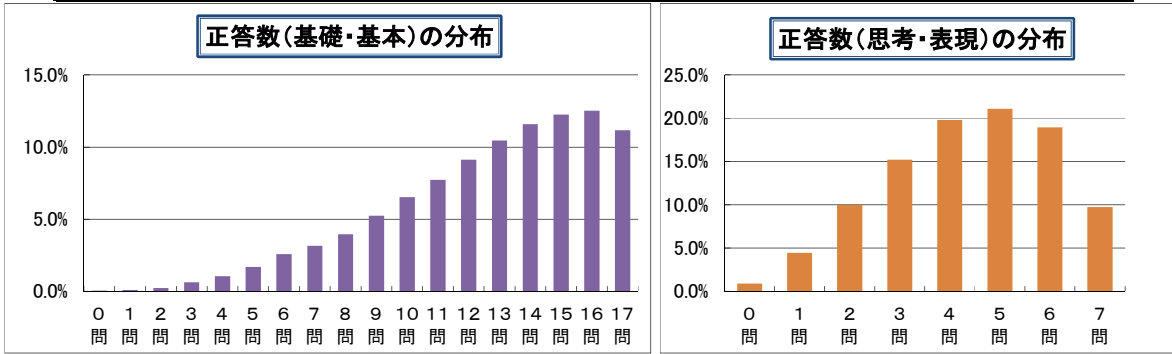
学年別平均通過率		小5	中1	中2
	基礎・基本	75.8%	71.4%	74.3%
	思考・表現	73.7%	68.2%	62.3%
	全体	74.9%	70.3%	70.8%



- 「基礎・基本」の平均通過率は71.4%であり、追跡問題である大問1(2)の裸子植物のつくりは、これまで4割程度の通過率であったが、今回は62.8%となり、改善が図られつつある。しかし、大問2(2)の爬虫類の仲間は42.7%と低く、課題となっているため、授業の中で動物の特徴と分類を関連付けて定着させたい。
- 「思考・表現」の平均通過率は68.2%である。粒子領域(大問3, 4, 8)の平均通過率は67.6%と、課題が継続している。特に、大問4(3)密度の概念を活用した問いの通過率は42.8%で、粒子概念が十分に身に付いていない。
- 「探究の過程」を踏まえた授業を展開し、自分の考えをもたせ、観察・実験、他者との意見交換等を通して、自分の考えの再構築する場面を大切にしてほしい。また、単元末等には、かごしま学力向上支援Webシステムにある評価問題等を使うことで、学習内容を確実に定着させたい。

中学校第2学年【理科】

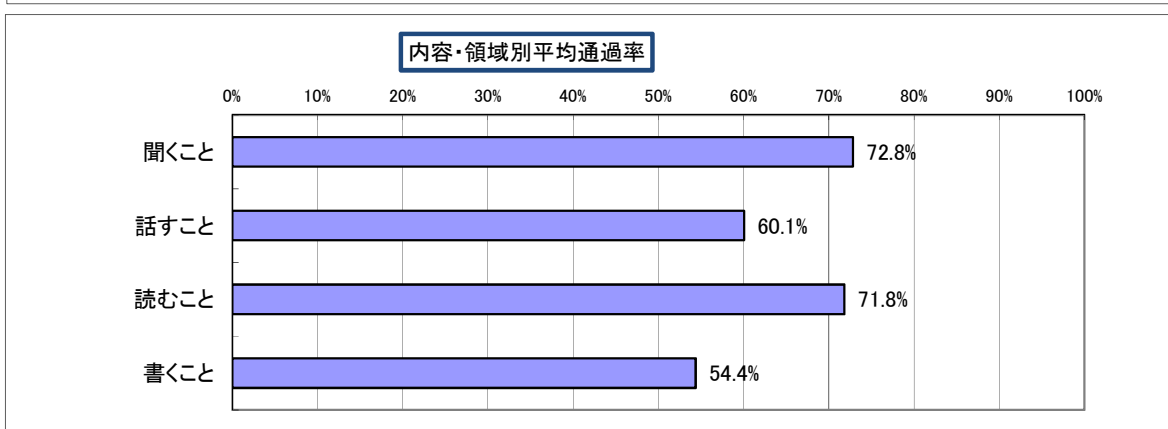
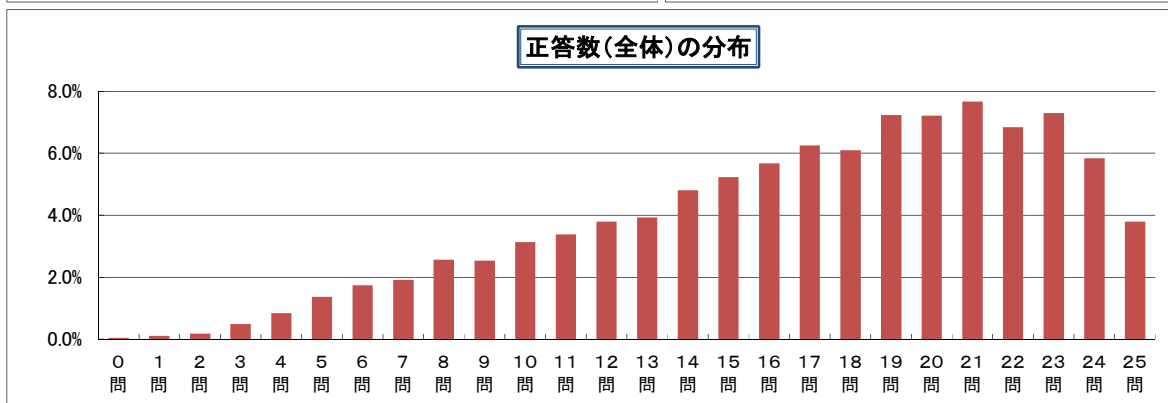
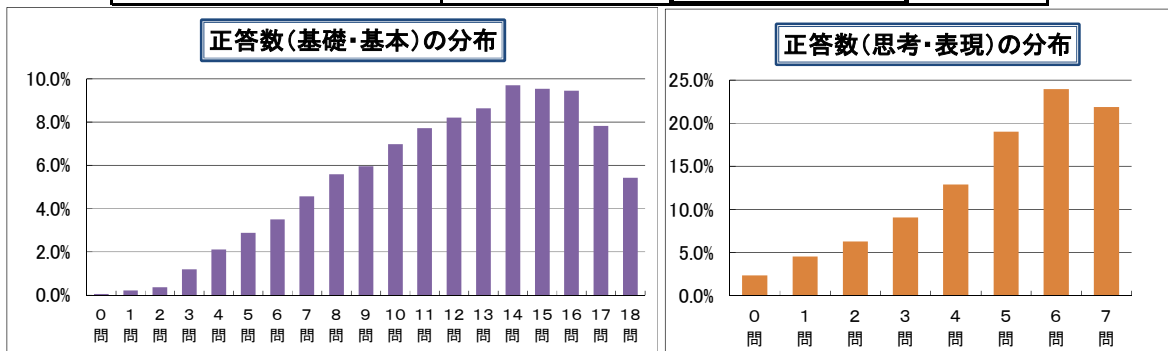
学年別平均通過率	基礎・基本	小5	中1	中2
	思考・表現	75.8%	71.4%	74.3%
	全体	73.7%	68.2%	62.3%
		74.9%	70.3%	70.8%



- 「基礎・基本」の平均通過率は74.3%であり、概ね知識は定着している。例年、通過率が2割程度で、課題であった圧力を求める問いが通過率50.3%と改善が図られつつある。しかし、中1で学習した大問3(2)示準化石の通過率は40.7%となっており、定着が不十分である。
- 「思考・表現」の平均通過率は62.3%である。大問3(3)地層のつながりから土地の傾きを捉える問いが通過率29.5%、大問6(3)の化合比を求める問いが通過率45.2%と空間概念の形成や計算により結果を算出することに課題が残っている。
- 単元間及び領域間のつながり、小・中の連携など、系統性を強く意識した指導の充実を図ること、単元での学習終了後、興味・関心を持続、向上させる工夫を充実させることを意識してほしい。また、学習内容を確実に定着させるために、かごしま学力向上支援Webシステムにある評価問題等の活用も図りたい。

中学校第1学年【英語】

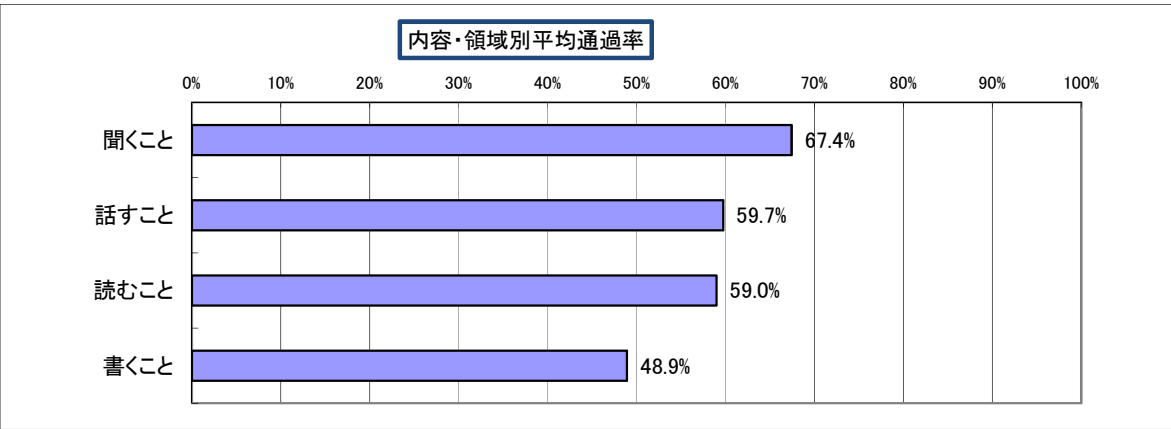
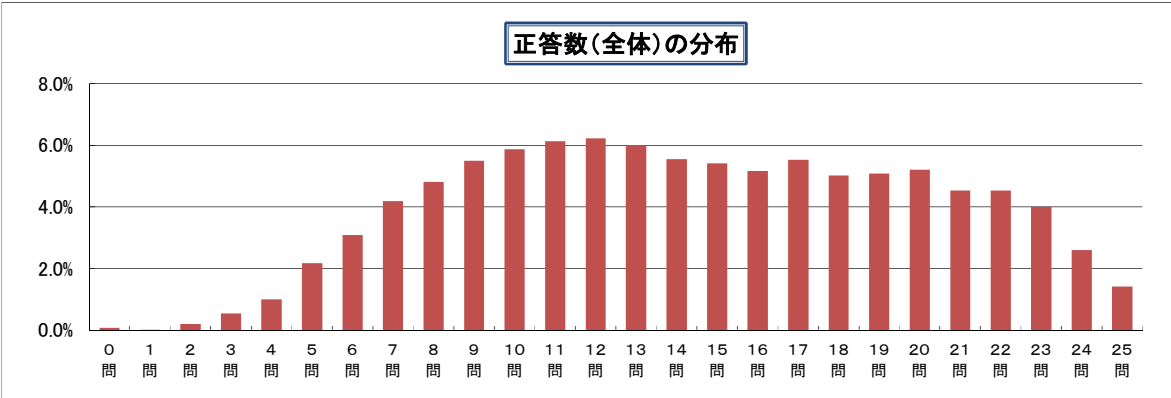
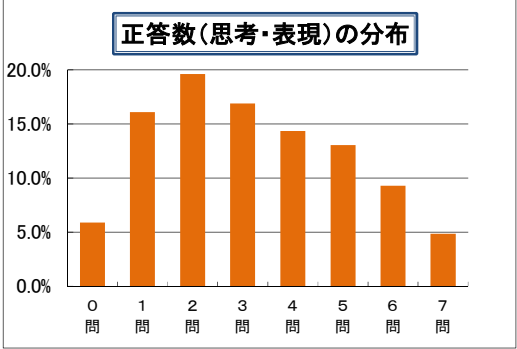
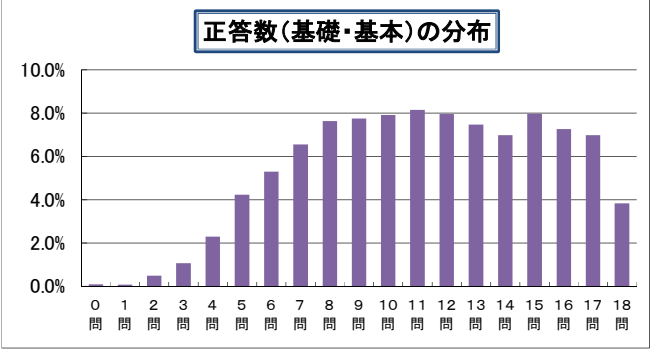
学年別平均通過率		中1	中2
	基礎・基本	67.4%	62.6%
	思考・表現	69.7%	45.5%
全体	68.0%	57.8%	



- 「基礎・基本」の平均通過率は67.4%であり、語順整序の問題では、小学校でも扱う表現を含んだ基本的な内容であったが、通過率が5割程度と低かった。また、動詞の語形変化を問う問題の通過率は30.1%であった。
- 「思考・表現」の平均通過率69.7%と高く、英語を読んで書く問題についても72.6%であり、目標の50%は超えたが、無解答率が9.2%である点は課題である。また、まとまりのある文章の概要を把握するために正しく読み取る問題が43.6%であった。指示語の内容を捉えながら、文章を最初から最後まで読み切る力を計画的に育成する必要がある。自己紹介を書く問題では、「内容の適切さ」、「正確さ」ともに前年度比で10ポイント改善している。
- 生徒が実際に英語を表現する機会を十分に確保し、知識を自在に使いこなせる技能にまで指導しているか、同様の課題が毎年繰り返されていないか、これまでの指導を振り返る必要がある。

中学校第2学年【英語】

学年別平均通過率	基礎・基本	中1	中2
	思考・表現	67.4%	62.6%
	全体	69.7%	45.5%
		68.0%	57.8%



- 「基礎・基本」の平均通過率は62.6%であり、大問5の文脈から適語を選択する問題、文と文のつながりに注意して英文を選択する問題の通過率がいずれも50%台であった。また、動詞の語形変化の問題と助動詞等を補って文を完成する問題は、過去の類似問題であったにもかかわらず、それぞれ30.8%、43.6%であった。
- 「思考・表現」の平均通過率は45.5%であり、特に、英語を聞いたり読んだりした後英語を書く問題では、無解答率がそれぞれ20%を超え、高かった。また、外国人に勧めたい場所を書く問題では、「内容の適切さ」が49.4%、「正確さ」が20.1%、無解答率が16.9%であった。
- 代名詞や接続詞を使いこなす力は、文章の概要や要点を把握する力にもつながるため、普段から数多くの英文に触れさせることが大切である。単語や英文を覚えさせて終わるのではなく、コミュニケーション場面で使える技能にまで高める指導が求められる。言語活動を繰り返し行う中で、教師の英語使用を増やすとともに、本調査の採点基準を参考に、英語を書こうとする意欲を認める評価の工夫に努めることも大切である。